

# 岩手県におけるカシノナガキクイムシの発生時期（1）

## — 一関市と大船渡市でのスカートトラップによる調査事例 —

### 1 はじめに

岩手県におけるブナ科樹木萎凋病（以下「ナラ枯れ」）は、平成22年に奥州市胆沢区で確認されたのを最初に、平成23年に一関市巖美町、平成25年に大船渡市三陸町で確認された。ナラ枯れ被害木の駆除は、病原菌の媒介昆虫であるカシノナガキクイムシ（以下「カシナガ」）の発生前に完了することが重要であることから、岩手県におけるカシナガの発生時期を調査した。

### 2 研究方法と結果

#### 【方法】

（一関調査地）一関市巖美町では、平成23年に被害が発生し、6本の被害木の幹部を伐倒駆除した（通常は伐根も駆除）。平成24年6月に、残された伐根をスカートトラップ（写真上）で覆い、11月まで定期的に伐根から発生するカシナガを捕獲した。

（大船渡調査地）大船渡市三陸町では、平成25年に被害が発生した。そのうちの5本の枯死木と1本の穿入生存木を駆除せず、平成26年6月にスカートトラップ（写真下）で地上高さ約1.5mまでの幹や根株を覆い、11月まで定期的に当該部分から発生するカシナガを捕獲した。

#### 【結果】

（一関調査地）7月5日の調査で発生が確認された。8月2日のピークにかけて急激に発生頭数が増え、7月中旬から8月初旬の約1か月に多くが

発生した。その後、急激に発生頭数は減ったが、11月7日まで少数の発生が続いた。伐根（穿入生存木含む）からは平均4,020頭（190～9,874頭）のカシナガが発生した。

（大船渡調査地）7月1日の調査で発生が確認された。8月5日のピークにかけて急激に発生頭数が増え、7月初旬から8月初旬の約1か月に多くが発生した。その後急激に発生頭数は減ったが、10月27日まで少数の発生が続いた。枯死木からは平均3,867頭（405～10,227頭）が、穿入生存木からは56頭のカシナガが発生した。

### 3 成果と今後の進め方

今回、カシナガは7月初旬の調査回で初確認されたので、初発は6月末ころであった可能性もある。駆除はそれまでに完了する必要がある。

今回の調査では一関市と大船渡市で初確認日がほぼ同じであったが、調査年が違うことから、平均的な発生時期については次報で検討する。

カシナガの穿孔は樹幹下部に多く、伐根からも多数発生することや、穿入生存木から発生するカシナガの頭数は枯死木に比べて非常に少ないことは既知のとおりであった。伐倒駆除では伐根も確実に処理する必要があることや、穿入生存木は駆除対象としないことを検討する（穿入生存木は翌年加害されにくい）ため）など、カシナガの生態に応じた防除を実施することが重要となる。



写真 伐根（写真上）と立木（写真下）に設置したスカートトラップ  
対象を遮光性資材で覆い、明かり穴を開けて、そこに集まったカシノナガキクイムシを捕獲する仕組み。

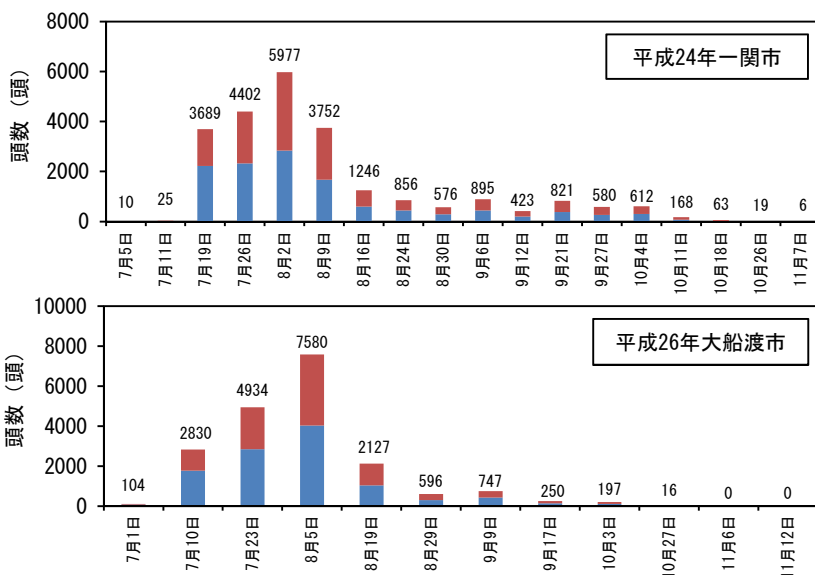


図 一関市と大船渡市のカシノナガキクイムシの発生時期

注：平成26年大船渡市の調査において、8月5日調査で3基、9月9日調査で1基のトラップがクマによる加害を受け、一部の捕獲虫が逃亡したため、その回の捕獲頭数は過小となっている。  
凡例：■オス、■メス

（担当 研究部 上席専門研究員 高橋健太郎）

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11  
岩手県林業技術センター  
ホームページアドレス <http://www2.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536  
F A X 019-697-1410